

平成12年 3月10日
原子力安全対策課
(11 - 156)
<11時資料配布>

新型転換炉ふげん発電所の計画停止作業開始について

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格出力16.5万kW）は、平成12年3月11日から約3週間の予定で平成11年度計画停止作業を実施する。今回の計画停止では燃料集合体の取替え等を行う。

1. 主要作業

(1) 燃料集合体の取替

燃料集合体224体のうち、16体を新燃料集合体と取替える予定である。
取替える新燃料はすべて二酸化ウラン燃料である。

(2) 機器・弁類の点検

原子炉およびタービン系機器・弁類の外観点検等を実施する。

(3) 蓄積放射能調査

(図-1 参照)

「ふげん」の廃止措置準備として、構造物に含まれる放射エネルギーを詳細に評価するため、第15回定期検査時に原子炉廻りやタービン建屋に設置した放射化箔の一部回収を行うとともに、原子炉補助建屋のコンクリート壁のサンプリング調査を行う。

2. 発電再開予定

平成12年 4月上旬

第15回定期検査時以降に原子炉廻り及びタービン建屋に設置した金属箔等の回収

○金属箔等の種類と大きさ
(小型)金、コバルト、ニッケル、鉄
直径約1 cm、
厚さ約0.1～1mm
(大型)金
直径約5 cm、
厚さ約0.1mm
(粉末)ユーロピウム、カルシウム

○取付箇所 【 】内は今回の回収数
原子炉上部 8箇所(小型) 【2】
原子炉側部 18箇所(小型) 【12】
原子炉下部 22箇所(小型) 【9】
格納容器内 42箇所(大型) 【39】
タービン建屋内 14箇所(大型) 【3】

○測定方法
原子炉廻りに設置した金属箔は、運転中の中性子照射を受けて放射化する。
その金属箔を回収し、金属箔中の放射能量を測定することにより、原子炉運転中の中性子束分布を求める。

原子炉補助建屋コンクリートのサンプリング調査

○調査箇所
地上3階壁 4箇所

○測定方法
コンクリート中の放射能量とコンクリート中の水に含まれるトリチウムの量を測定する。

○サンプリング方法
ボーリングによるサンプリング
・ボーリング仕様
直径約7 cm
深さ約100 cm(貫通)

		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
運転計画		第14回定検	第15回定検	*1 計画停止			
金属箔	取り付け	●	●	●	○		
	取り外し			▲	▲	△	
コンクリートのサンプリング			■	■	□		

*1：シールプラグ機能低下に伴う原子炉手動停止（平成11年10月29日～平成11年11月30日）

*2：平成12年度以降については、それまでの実績に基づき具体的な計画を策定する予定。

図-1 平成11年度計画停止時 蓄積放射能量の調査概要図